

# JUSTEC 2010開催

大谷千恵 ●教育学部助教、JUSTEC事務局長



JUSTEC 2010フォーラム基調講演。ポストン・カレッジのマリリン・コ克蘭スミス教授は、言語・文化などが多様化するアメリカの教育現場と教員養成の実践例を語った



JUSTECのメンバーが玉川学園幼稚園・低学年を訪問。ほかにも、町田市の学習塾や保育所などを視察した

七月二日から二五日まで、玉川大学で二回目の日米教員養成協議会 (Japan-U.S. Teacher Education Consortium、通称JUSTEC) を開催しました。

JUSTECは、一九八七年に日米それぞれ一〇大学の学部長たちによって、教員養成や教師教育における研究や共同研究を促進していくために設立されました。

設立当初は、学部長たちが中心となって活動していた協議会でしたが、現在は、教員養成・教師教育に関わる研究者・教育関係者に広く開かれた協議会として成長し、毎年、日米交互に開催しています。

JUSTECには、①研究者間の友好的な信頼関係を築いたうえで、日米の教員養成コースを持つ大学が、研究の成果を内外に発信していく場

を提供する ②研究発表・教育視察・情報交換などを通して、日米各国のあるいは日米共同の教育研究・実践を促し、研究者や教員の養成に寄与する ③個人によるリサーチ・研究や日米共同研究を促進させるため、学生、教員および教育行政関係者など、教育に関わるすべての人々に発表とディスカッションを通じた交流の機会を提供する ④日米のすぐれ

た実践例を内外に発信していく場を提供する、という目的があります。

設立当初からこれまでのJUSTECへの貢献が評価され、日米の参加大学からは本学に対する高い期待が寄せられました。そこで小原芳明学長の理解と支援のもと、二〇〇九年一月より、本学がJUSTECの正式な基幹大学となりました。

さらに今年度は、JUSTECが日米の教育に成果を還元してきたことが評価され、アメリカ大使館、文部科学省、日本教育行政学会、日本教育経営学会、日本教育実践学会、日本感性教育学会からの後援をいただきました。

とくに、二五日のフォーラムについては、教育研究者だけでなく、現職教員にとっても意義があると開催前から高く評価をいただきました。

その結果、東京都教育委員会、神奈川県教育委員会、埼玉県教育委員会をはじめ、五つの教育委員会(稲城市、川崎市、町田市、相模原市、横浜市)から後援を得ることができました。

JUSTEC 2010は、JUSTECにとってだけでなく、本学にとっても特別な協議会だったと言えます。

\* \* \*

JUSTEC 2010は、左のプログラムのとおり開催されました。研究発表では、二四の研究発表が六つのセッションの中で発表されました。本学からは、五つの発表があり、多くの注目を集めました。

フォーラムには、教育委員会、学校管理職、教員、研究者、学生など、多くの教育関係者が参加しました。中には、京都や大分から参加された教員や研究者もいました。

フォーラムのテーマは「多様なニーズを持った子ども達のための支援教育」。はじめに、アメリカの著名

な教師教育研究者であるボストン・カレッジのマリリン・コ克蘭スミス教授をお迎えし、基調講演が行われました。経済のグローバル化にともない、欧米をはじめ多くの国々で人口の流動化が進んでいます。人種や文化・言語が多様化する中で、児童生徒のニーズに、教師や学校はどう応えていけばいいのか。コ克蘭スミス教授は、「文化の多様性を資産として見ていく」重要性について、アメリカの教育現場での具体的な実践などを盛り込みながら話されました。

また多様な子どもたちのニーズに応えるためには、教員養成大学のコースワークや教員採用においても、多様性を資産とする視点が必要であること、その視点をベースにした研究や実践の大切さについての指摘がありました。

続いて鳴門教育大学の小野由美子教授が、教員養成学部学生に対する外国人児童生徒に関する意識・態度の調査結果や、外国人児童生徒を担当したことのある現職教員の意識・態度に関する調査結果を紹介。日本における多様性・多文化を前提

にした教員養成の必要性について発表がありました。

さらに、玉川大学教職大学院の阿久澤栄准教授から、軽度の発達障害を持った子どもたちの現状と求められる支援教育、教員養成の課題について発表がありました。

講演後、フロアからは講演者に対して約七〇の質問が寄せられ、参加者の反応が高いフォーラムとなりました。

アンケートでは、言語に配慮した同時通訳や資料について、また託児サービスを設けて子育て中の教員や研究者に配慮した点などについて高い評価をいただきました。多くの教育関係者にJUSTECの取り組みを還元できたフォーラムだったと言えるでしょう。

今回、フォーラムで取り上げられなかった質問については、講演者・パネリストたちに回答をお願いしましたので、九月中旬以降に、下記のホームページで回答を公開予定です。

本学がJUSTECの基幹大学として動き始めてから今回の開催まで、学術研究所をはじめ、学内の多くの部処や教職員の協力をいただきました。無事協議会を終えることができました。心より感謝を申し上げます。

## JUSTEC 2010プログラム

7月22日	JUSTECメンバーによる教育視察 (希望者のみ) 午前：幼稚園・低学年視察 午後：予備校・学習塾視察
7月23日	研究発表 セッション1 : Japan and U.S. Approaches to Teaching and Teacher Education セッション2 : Culture and Other Issues of Diversity セッション3 : English Language Instruction in Higher Education  夕食会 玉川大学芸術学部の和太鼓と舞踊の鑑賞
7月24日	研究発表 セッション4 : K-12 English Language Education セッション5 : Teacher Assessment and Technology セッション6 : Responses to Teaching Challenges  レセプション
7月25日	午前：報告会  JUSTEC 2010フォーラム 「多様なニーズを持った子ども達のための支援教育」  ■ 開会挨拶 玉川大学学長 小原芳明  ■ 基調講演 「多様性の課題に応える教員養成」 ボストン・カレッジ教授 マリリン・コ克蘭スミス  ■ パネリストによる講演1 「多文化・多言語化する学校現場と教員養成の課題」 鳴門教育大学教授 小野由美子  ■ パネリストによる講演2 「軽度の発達障害のある子どもたちへの支援教育と教員養成の課題」 玉川大学教職大学院准教授 阿久澤 栄  ■ 質疑応答 [コーディネーター] 玉川大学教職大学院教授 小松郁夫